

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 9 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493100048		
法人名	社会福祉法人 成城会		
事業所名	高齢者グループホーム瓢箪家		
所在地	広島県安芸郡熊野町城之堀二丁目28番41号 (電話 082-573-0558)		
自己評価作成日	平成27年7月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成27年7月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>●ハード面では、プライバシーに配慮した造りとなっており、場面に応じて、食堂とリビングルームを活用して、過ごしてもらっている。</p> <p>●自立支援を促すため、全トイレと脱衣室にファンレストテーブル（前傾姿勢支持テーブル）を設置している。浴室にも、法人独自の前傾姿勢保持テーブルを設置し、安全で安心な入浴サービスを提供している。</p> <p>●10時と15時には、必ずお茶の時間を設け、脱水予防に努めると共に、ラジオ体操・レクリエーション・散歩等を行い、心身の活性化に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>高齢者グループホーム瓢箪家（以下、ホーム）は、緑に囲まれ季節ごとに咲く花を觀賞しながら散歩できる環境の中にあります。</p> <p>建物内の廊下やトイレは、人目を気にしなくてもよい環境を整え、プライバシーに配慮されています。重度化した場合でもトイレでの排泄を可能にするための設備を整え、車椅子の人も食事の際は状態に合わせた高さの椅子に移乗するなど、入居者一人ひとりの機能を維持しながら負担なく生活できる場づくりを工夫されています。</p> <p>また、職員の就業時間の見直しを行うことで、週2回だった入浴を週3回に増やすなど、時間の効率化を図ると共に、より質の高いサービスを提供できるよう努力されています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念「楽しい心、謙虚な心、感動する心」を掲げ、実践に努めている。その理念の元、瓢箪家の利用者様との3つの約束を作り、職員で共有を図っている。	法人理念を基本に、ホーム独自で「利用者様に丁寧に接します」「利用者様に笑顔で接します」「利用者様に感謝の気持ちで接します」の3つの約束を掲げ、日々のケアに取り組まれています。職員は、相手に分かりやすく伝えられるよう、丁寧にゆっくり話しかけることを心がけながら理念や約束の実践に向けて取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事(敬老会、文化祭)に積極的に参加している。地元の保育園と交流している。近所に散歩に出掛けただけには、花など頂くこともある。	地域行事には、法人全体で参加されています。また、保育園児と一緒にサツマイモの苗を植えるなどの交流を図られています。法人の夏祭りには地域住民の参加もあり、入居者や家族が参加し交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の行事(夏祭りやオータムフェスタ)の案内をし、参加して頂く中で、理解・協力を得られるよう務めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状報告や意見交換の場を設け、会議での意見をサービス向上に活かしている。活動報告の他に、委員の意見を反映し、外構工事(門扉整備)を行ったり、防災訓練を実施したりしている。	2か月に1回の会議には、家族、民生委員・児童委員、町職員、地域包括支援センター職員の参加があります。会議メンバーの意見をもとに、建物から車への移動の際に雨に濡れないよう屋根の設置工事を行うなど、助言や提案を運営に取り入れておられます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者とは、日頃から連絡を取り合い、運営推進会議では、事業所の状況報告やケアの取組みを積極的に伝え、意見交換を行っている。	市町担当者とは、日頃から相談などで連絡を取られています。意見交換を通して徐々に関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内研修で、身体拘束廃止について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ただし、玄関の施錠については、熊野町行政からの強い指導により、日中も開錠していない。</p>	<p>理学療法士による介護技術と合わせて、定期的に拘束についての勉強会を実施されています。行政の指導により、玄関や職員の出入り口を施錠されていますが、日中施錠しない環境づくりのためにホームでは行政と検討できるよう働きかけておられます。</p>	<p>今後は、どのようなことが身体拘束に該当するのかについて行政との共通理解を深め、入居者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫を家族や関係機関などと幅広く協議されていくことを提案します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所内研修を実施し、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>パンフレット等で学ぶようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>パンフレットや関係書類を用いて、十分に説明を行い、十分に理解・納得された上で、契約するようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃より面会時や電話連絡時を活用して、声を掛け、話しやすい雰囲気づくりに務めている。運営推進会議や家族会で、利用者や家族の要望を聞き、サービス向上に努めている。</p>	<p>毎月送付の請求書と一緒に、ケアマネジャーから入居者の日々の様子を報告し、意見や要望が言いやすい環境づくりに努力されています。家族から出された意見をもとに、その日の勤務職員が一目で分かるよう、ホームの玄関前に職員の名前と顔写真を掲示し、どの職員に相談したら良いのかなど、家族が判断しやすくするための工夫をされています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や日頃のコミュニケーションで、一人一人の意見を聞くようにしている。事業計画や年間計画は、職員の意見を聞きながら、作成している。</p>	<p>月1回のミーティングや6か月毎の個人面談で意見や提案を聞かれています。職員からは、休憩時間の確保について意見が出され、改善に向けて検討されています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員一人一人が目標を持ち、業務に取り組めるよう人事考課制度を取り入れている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内研修は年間を通して、開催すると共に、職場外研修にも積極的に参加するよう働き掛けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>定期的に地域の在宅ケア検討会に参加し、意見交換、情報収集が出来る。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に本人、家族の話を聞き、ケアプラン原案を作成し、担当者会議で、事業所の職員が共有出来るように務めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、家族の困っていること、要望を聞き、ケアプラン原案を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いや意見、事情等を把握し、職員間で話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に、食事を作ったり、食器を洗ったり、洗濯物を畳んだりという日々の活動を通して、利用者自身が暮らしづくりが出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、面会等の機会を利用して、日々の様子を伝え、本人の思いが実現できるよう協力依頼をしている。また、変化があれば、家族に報告、連絡、相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人や家族からの要望、情報を元に、本人の訴え時や状況によって、なじみの場所への外出を行うことで、関係づくりの継続を図っている。	家族の協力を得て、馴染みの美容院に通う入居者がおられます。家族や知人などが訪問してくることも多く、入居者と会話を楽しまれています。また、毎月、顔馴染みのカラオケボランティアの訪問があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事等の日常生活の場面で、一緒に作業を行うなどの配慮をしている。食事やレクリエーションの時には、座席に配慮し、声を掛け合う雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居を希望された際には、居宅介護支援事業者や他の介護保険施設等へ情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人や家族の要望をお聞きする。意思表示が難しい方には、日々の表情や言動から読み取っている。	入居者の思いや意向を日常会話から把握し、得た情報は申し送りノートで職員全員が共有できるよう取り組まれています。意思表示の難しい入居者には、家族の訪問時やケアプラン更新時に電話で意見や情報を得て思いの把握に努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に、ご本人や家族から情報収集を行い、日々の過ごし方、趣味、特技等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスや情報共有ノートを活用して、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>定期的にカンファレンスを行い、本人・家族の意向や新たなニーズをケアプランの原案に反映している。</p>	<p>ケアプランの見直しを行う際は、ケアマネジャーを中心に、医師の意見を聞き、カンファレンスでホームの看護師や職員の意見を聞かれています。今後は、職員ごとに担当制を設け、さらに入居者本人の状況に合った介護計画の作成ができるよう検討されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は、個別記録に記載すると共に、朝のミーティングや情報共有ノートを活用して、情報の共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別の要望に応じて、通院、買い物等への付き添いを行っている。訪問理容室を利用し、整容の支援を行っている。定期的に、内科、眼科、歯科の往診がある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のミニデイ、文化祭、敬老会、地元の保育園の行事等に参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の週1回往診を受けている。ご本人や家族の希望があれば、主治医を変更せず、受診同行している。</p>	<p>かかりつけ医への受診は、家族の対応が基本ですが、希望があれば職員の同行受診や薬の受け取りの対応をされています。協力医療機関での受診では、ホームの看護師が家族と連絡を取り合い、医療に関する情報を共有されています。なお、週1回、歯科往診があり、口腔ケアや治療が行われています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>職場内の看護職員と日々、報告、連絡、相談を行っている。職場内の看護職員不在の際は、隣接する事業所の看護職員の協力を得るようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には付き添い、家族と一緒に医師や看護職員から説明を受けている。入院後は、面会に行き、相談室とも連携し、情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人、家族の意向を聞きながら、主治医と協議の上、対応を検討している。必要があれば、他の施設や医療機関への入所の支援を行っている。</p>	<p>これまでにホームでの看取り経験があります。兆候が見られた場合に、家族と話し合い、ホームとしてできることを説明したうえで支援されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成している。救護法を年1回実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防防災計画に基づき、定期的に訓練を行い、職員が災害時に迅速に対応できるようにしている。運営推進会議でも、消防防災訓練を実施している。法人内の消防防災訓練では、地域の自治会の協力を得ている。</p>	<p>法人と行政で協定を結び、ホームの建物は福祉避難所として指定されています。法人全体の訓練と合わせて、夜間想定や通報、災害など、ホーム独自に訓練を実施されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護に当たっては、ご本人の気持ちを大切に考え、自己決定を促すような声掛けに配慮している。	トイレは、出入口や介助の際に他者の目にふれないように工夫され、羞恥心やプライバシーを損ねないよう配慮されています。また、法人全体で認知症の理解や人格尊重について勉強会を行い、職員全員が参加できるよう複数回実施されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から、ご本人の思いを表現しやすい声掛けや対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかなスケジュールのみを決め、日々は、ご本人の体調や思いに添って、一人一人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の更衣や入浴の際には、ご本人の好みの服を選んで頂いている。行きつけの美容院に通って頂くよう、ご家族にも協力を依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食の準備、片付けは、利用者さんと一緒に行っている。週2回は、利用者さんと一緒に食事作りを行っている。週1回は、手作りおやつ作りを行っている。	食事は外部委託され、毎食、母体法人より届きます。週2回の昼に、入居者の希望を取り入れたメニューを栄養士が作成し、入居者は職員と一緒に食事づくりを楽しんでいます。六角テーブルに、入居者一人ひとりの体系や状態に合わせた椅子を設置し、負担なく食事を楽しめるよう工夫されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分摂取量を毎日記入し、把握に努めている。水分量は一日1200cc以上を目標とし、水分摂取が困難な方には、手作りゼリー等で対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを実施している。歯科医師による訪問診療を週1回受け、口腔ケアに関する指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>随時、トイレ誘導を行い、座位での排泄を促している。トイレには、前傾姿勢支持テーブルが設置しており、自立を促す工夫がしてある。</p>	<p>日中のオムツ使用はありません。職員は、排泄表や様子を見ながら、声かけによるトイレ誘導を行っておられます。男性用立位式便器の設置、車椅子でも可能なスペースの確保など、習慣や状態に配慮したトイレ環境を整備されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ、自然排便となるよう、水分をしっかりと取って頂くため、10時、15時にお茶の時間を設けると共に、ゼリー等での対応を行っている。毎日のラジオ体操、レクリエーションで、体を動かすようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は、週3回と決めており、時間も日中の時間のみであり、個々の生活習慣に応じた対応とはなっていない。</p>	<p>入浴は、一人介助から二人介助に変更するなど、入居者が安全に入れるよう工夫されています。風呂場には、シャワード・バス(全身シャワー)が設置され、浴槽に浸かることが難しい人も湯に浸かったように全身を温めることができ、一人ひとりの状態に合わせて支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間、就寝時間は一律とはなっておらず、一人一人のペースに合わせている。夜間、眠れない場合は、温かい飲み物を飲んで頂くなどの対応をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人一人が使用している薬の目的が果たせるよう、確実な服薬支援を行っている。また、日々の変化については、随時、看護職員に報告相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食事作り、洗い物、洗濯干し、洗濯物畳み等役割を持って生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>入所者の希望に合わせ、散歩に出掛けたり、外出行事を実施している。</p>	<p>季節に応じて天気の良い日には、積極的に外出の機会をつくられています。春には音戸の花見を楽しんだり、秋には三景園へ紅葉狩りの計画を立てたり、季節を感じながら楽しめるよう工夫されています。また、職員と一緒に買い物に出かけるなど、個別に外出することもあります。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物時には、自分で支払いができるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の希望があれば、電話を掛けたり等の支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各個室、廊下等は、間接照明を用い、落ちついた雰囲気となっている。共用スペースには、床置き空調機を設置し、心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>方向転換が必要な場所の手すりやエレベータ前に長椅子を設置するなど、暮らしやすさに工夫されています。リビングに対面式のキッチンがあり、食事の準備時には調理の良い匂いが入居者の五感を刺激し、食欲増進にもつながっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>各階に共用スペースとして、食堂とリビングルームの2箇所を設け、どちらで過ごしてもいいよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室の配置は、プライバシーが守れるような造りとなっている。個室には、ご本人の使い慣れたものや好みのものを持ち込んで頂くようお願いしている。</p>	<p>居室には、ベッド、エアコン、クローゼット、床頭台が完備され、間接照明で明るさを調整されています。入居者は、お気に入りの品物や慣れ親しんだ物を持ち込まれています。洋室のほかにも和室があり、炬燵を置く入居者もいるなど、思い思いに居心地よく寛げる空間づくりに工夫されています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>六角テーブルや本人の下腿長に合わせた椅子の整備を行っている。トイレや脱衣室、浴室には、前傾姿勢保持テーブルを設置し、ご本人の自立や介護の安全性に配慮している。</p>		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念「楽しい心、謙虚な心、感動する心」を掲げ、実践に努めている。その理念の元、瓢箪家の利用者様との3つの約束を作り、職員で共有を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事(敬老会、文化祭)に積極的に参加している。地元の保育園と交流している。近所に散歩に出掛けた際には、花など頂くこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の行事(夏祭りやオータムフェスタ)の案内をし、参加して頂く中で、理解・協力を得られるよう務めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状報告や意見交換の場を設け、会議での意見をサービス向上に活かしている。活動報告の他に、委員の意見を反映し、外構工事(門扉整備)を行ったり、防災訓練を実施したりしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者とは、日頃から連絡を取り合い、運営推進会議では、事業所の状況報告やケアの取組みを積極的に伝え、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内研修で、身体拘束廃止について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ただし、玄関の施錠については、熊野町行政からの強い指導により、日中も開錠していない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所内研修を実施し、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>パンフレット等で学ぶようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>パンフレットや関係書類を用いて、十分に説明を行い、十分に理解・納得された上で、契約するようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃より面会時や電話連絡時を活用して、声を掛け、話しやすい雰囲気づくりに務めている。運営推進会議や家族会で、利用者や家族の要望を聞き、サービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や日頃のコミュニケーションで、一人一人の意見を聞くようにしている。事業計画や年間計画は、職員の意見を聞きながら、作成している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員一人一人が目標を持ち、業務に取り組めるよう人事考課制度を取り入れている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内研修は年間を通して、開催すると共に、職場外研修にも積極的に参加するよう働き掛けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>定期的に地域の在宅ケア検討会に参加し、意見交換、情報収集が出来ている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に本人、家族の話を聞き、ケアプラン原案を作成し、担当者会議で、事業所の職員が共有出来るように務めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に、家族の困っていること、要望を聞き、ケアプラン原案を作成している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の思いや意見、事情等を把握し、職員間で話し合い、必要な支援を見極めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>共に、食事を作ったり、食器を洗ったり、洗濯物を畳んだりという日々の活動を通して、利用者自身が暮らしづくりが出来るよう支援している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族には、面会等の機会を利用して、日々の様子を伝え、本人の思いが実現できるよう協力依頼をしている。また、変化があれば、家族に報告、連絡、相談をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人や家族からの要望、情報を元に、本人の訴え時や状況によって、なじみの場所への外出を行うことで、関係づくりの継続を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事等の日常生活の場面で、一緒に作業を行うなどの配慮をしている。食事やレクリエーションの時には、座席に配慮し、声を掛け合う雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居を希望された際には、居宅介護支援事業者や他の介護保険施設等へ情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人や家族の要望をお聞きする。意思表示が難しい方には、日々の表情や言動から読み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に、ご本人や家族から情報収集を行い、日々の過ごし方、趣味、特技等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスや情報共有ノートを活用して、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>定期的にカンファレンスを行い、本人・家族の意向や新たなニーズをケアプランの原案に反映している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は、個別記録に記載すると共に、朝のミーティングや情報共有ノートを活用して、情報の共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別の要望に応じて、通院、買い物等への付き添いを行っている。訪問理容室を利用し、整容の支援を行っている。定期的に、内科、眼科、歯科の往診がある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のミニデイ、文化祭、敬老会、地元の保育園の行事等に参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の週1回往診を受けている。ご本人や家族の希望があれば、主治医を変更せず、受診同行している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>職場内の看護職員と日々、報告、連絡、相談を行っている。職場内の看護職員不在の際は、隣接する事業所の看護職員の協力を得るようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には付き添い、家族と一緒に医師や看護職員から説明を受けている。入院後は、面会に行き、相談室とも連携し、情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人、家族の意向を聞きながら、主治医と協議の上、対応を検討している。必要があれば、他の施設や医療機関への入所の支援を行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成している。救護法を年1回実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防防災計画に基づき、定期的に訓練を行い、職員が災害時に迅速に対応できるようにしている。運営推進会議でも、消防防災訓練を実施している。法人内の消防防災訓練では、地域の自治会の協力を得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護に当たっては、ご本人の気持ちを大切に考え、自己決定を促すような声掛けに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から、ご本人の思いを表現しやすい声掛けや対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかなスケジュールのみを決め、日々は、ご本人の体調や思いに添って、一人一人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の更衣や入浴の際には、ご本人の好みの服を選んで頂いている。行きつけの美容院に通って頂くよう、ご家族にも協力を依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食の準備、片付けは、利用者さんと一緒に行っている。週2回は、利用者さんと一緒に食事作りを行っている。週1回は、手作りおやつ作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分摂取量を毎日記入し、把握に努めている。水分量は一日1200cc以上を目標とし、水分摂取が困難な方には、手作りゼリー等で対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを実施している。歯科医師による訪問診療を週1回受け、口腔ケアに関する指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>随時、トイレ誘導を行い、座位での排泄を促している。トイレには、前傾姿勢支持テーブルが設置してあり、自立を促す工夫がしてある。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ、自然排便となるよう、水分をしっかりと取って頂くため、10時、15時にお茶の時間を設けると共に、ゼリー等での対応を行っている。毎日のラジオ体操、レクリエーションで、体を動かすようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は、週3回と決めており、時間も日中の時間のみであり、個々の生活習慣に応じた対応とはなっていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間、就寝時間は一律とはなっておらず、一人一人のペースに合わせている。夜間、眠れない場合は、温かい飲み物を飲んで頂くなどの対応をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人一人が使用している薬の目的が果たせるよう、確実な服薬支援を行っている。また、日々の変化については、随時、看護職員に報告相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食事作り、洗い物、洗濯干し、洗濯物畳み等役割を持って生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>入所者の希望に合わせ、散歩に出掛けたり、外出行事を実施している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物時には、自分で支払いができるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば、電話を掛けたり等の支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各個室、廊下等は、間接照明を用い、落ちついた雰囲気となっている。共用スペースには、床置き空調機を設置し、心地よく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各階に共用スペースとして、食堂とリビングルームの2箇所を設け、どちらで過ごしてもいいよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の配置は、プライバシーが守れるような造りとなっている。個室には、ご本人の使い慣れたものや好みのものを持ち込んで頂くようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	六角テーブルや本人の下腿長に合わせた椅子の整備を行っている。トイレや脱衣室には、前傾姿勢支持テーブルを設置し、ご本人の自立や介護の安全性に配慮している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 高齢者グループホーム瓢箪家

作成日 平成 27 年 10 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	熊野町の指導により建物の外に出れないよう玄関の施錠, フェンスの取り付けを行っている。	日中はオープンスペースで自由に入出りできるようにする。	熊野町の理解を得るためにも, 運営推進会議で家族も含めて検討していく。	平成28年度中
2	10	家族や利用者の要望をサービス向上につなげていく仕組みができていない。 (チーム全体で取り組めていない)	職員一人ひとりがケアプランに対して責任を持ち, ケアプラン原案の提案から実施まで責任持って実践できるようにする。	カンファレンスを最低月2回は行う。	平成28年3月31日
3	26			担当制を設け, 担当者がケアプランに対する意見を出していく。	
4	19	家族会が継続的に実施できていない。	年2回は行事と一緒に家族会を実施する。	忘年会, 花見会を実施する。	平成27年12月 平成28年4月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。